

**TOYOTETSU**

# 環境報告書 2025

Environmental Report



ヤマトシジミ (2020年7月)



オオシオカラ (2018年7月)



ナナフシモドキ (2020年4月)



クワトゲエダシャク (2022年4月)

トヨテツの森にやってきた仲間たち



# 1 目次

1. 目次	..1
2. トップメッセージ	..2
3. 環境マネジメント	..3
1 : トヨテツグループ環境方針	
2 : 環境方針・環境取組みプランとSDGs	
3 : 環境推進体制と各部リーダーメッセージ	
4 : 第5次トヨテツグループ環境取組みプラン	
4. 2024年度取組み結果	..7
5. 脱炭素社会に向けた取組み	..8
1 : CNロードマップ	
2 : 生産活動における実績総括	
3 : 生産活動におけるCO <sub>2</sub> 排出量低減実績	
4 : 事技部門におけるCO <sub>2</sub> 排出量低減実績	
5 : 新工場建設におけるCN取組み	
6 : トヨテツグループの再生可能エネルギー取組み状況	
6. 循環型社会に向けた取組み	..14
1 : 生産活動における水使用・廃棄物排出実績	
7. 改善	..15
1 : 生産工場における改善実施内容	
2 : 生産技術部門における改善実施内容	
3 : 技術開発部門における改善実施内容	
8. 自然共生社会に向けた取組み	..20
1 : トヨテツの自然共生・生物多様性	
2 : トヨテツの森での活動	
3 : 環境保全活動	
9. マネジメント	..24
1 : 法令遵守に向けた取組み	
2 : 環境連結マネジメントの強化	
3 : 環境月間の取組み	
4 : 地域貢献活動	
5 : トヨテツグループトピックス	
6 : トヨテツの森」の取組みを発信	
10. 第三者保証	..32

## 編集方針

トヨテツ環境報告書は、トヨテツの環境保全活動について広く社会に発信することを目的に発行しています。

## 報告対象範囲

豊田鉄工(株)および連結対象の関連会社

※グラフ、表のデータは豊田鉄工本体のものを示す。  
(一部で国内外事業体データを含む)

## 報告対象期間

2024年4月1日から2025年3月31日  
までの活動を報告

## 参照ガイドライン

環境省発行  
『環境報告ガイドライン』

## 発行時期

2025年11月

## 会社概要

会社名

**豊田鉄工株式会社**

TOYODA IRON WORKS CO., LTD.

代表者名 坂元 康彦

所在地 本社： 愛知県豊田市細谷町 4丁目50番地

創立 1946年（昭和21年）2月27日

主な事業 自動車部品製造

## 2 トップメッセージ

### 2030年CO<sub>2</sub>排出量50%減(2013年比)に向けて、みんなでチャレンジ

世界は今、2050年カーボンニュートラル達成に向かって取組んでいます。私たちトヨタグループも、この地球規模の課題に企業としての社会的責任を果たすべく、環境負荷低減に向けた活動を推進しています。

今年の日本の夏も記録的な暑さでした。人命にかかるほど猛暑や甚大な被害をもたらした豪雨が連日発生し、我々の日常生活にも大きく影響しています。この影響は我々の生活だけでなく海や森の生態系などにも及んでいます。

現在トヨタでは、第5次環境取組みプラン(2021~2025年度)として、

- (1) 脱炭素
- (2) 循環型社会
- (3) 自然共生・生物多様性
- (4) マネジメント

の4本柱で取組んでいます。地球規模から見れば、極々小さなアクションかも知れませんが、その積み重ねが

地球環境を改善する持続可能な活動につながると確信しております。

24年度の活動結果では、概ね目標を達成しておりますが、問題・課題もいくつか見えてきました。その点は、確実に解決策を講じ、「第5次プラン」の最終年から次期「第6次プラン」の策定にあたり、しっかり目標を定め、更なる環境負荷低減に取組んでまいります。

地球環境保全への取組みは、我々人類にとって“待ったなし”的状況であり、タイムリーかつスピーディーに対応しなければなりません。この取組みに『ひとり勝ち』などありません。地球のため、子供たちのために我々トヨタグループも全員が一丸となって、“愚直に地道に徹底的に”取組んでまいります。



代表取締役社長

坂元 康彦



# 3 環境マネジメント

## 3-1. トヨテツグループ環境方針



### 環境方針

#### トヨテツグループ地球環境憲章

(基本方針)

\*国内・海外のトヨテツグループに適用

##### 1. 豊かな21世紀社会への貢献

豊かな21世紀社会へ貢献するため、環境との調和ある成長をめざし、全ての事業活動にわたってゼロエミッションに挑戦します。

##### 2. 環境技術の追求

トヨテツグループは常に環境に配慮し、自動車部品をはじめとした製品開発ならびに環境にやさしい技術の開発に努めます。

##### 3. 自主的な取組み

未然防止の徹底と法規制等の順守に努めることはもとより、地球規模及び各国・各地域の環境課題を踏まえた自主的な改善計画を策定し、継続的な取組みを推進していきます。

##### 4. 社会との連携・協力

客先や仕入先との協力はもとより、地域社会をはじめ環境保全に関わる社会の幅広い層との連携・協力関係を構築していきます。

#### トヨテツ環境方針

1. 自動車部品を中心とするプレス・組立・型製作・樹脂成形等の事業活動全般において、環境への影響を予測・評価し、環境目的・目標を定め、環境マネジメントシステムの継続的改善を行うと共に見直しを行います。

2. 環境に関する法規制及び協定等を順守します。

3. 限りある資源を大切にするため、全員参加で廃棄物低減・省資源・省エネルギーに取組みます。

4. 工場周辺環境を踏まえ、地域社会との交流・情報収集を大切にすると共に、地域社会に迷惑をかけないよう汚染防止に努めます。

5. 環境に関する教育や広報活動を推進し、全従業員の環境に対する意識向上を図ります。

2023年 6月  
全社統括環境責任者

岡田 稔

# 3 環境マネジメント

## 3-2. 環境方針・環境取組みプランとSDGs

環境に関する基本方針は、2000年に制定された「トヨテツグループ地球環境憲章」のもと、「トヨテツ環境方針」として定め、トヨテツグループ国内外事業体21社で共有しています。そしてこの方針に基づき、5ヵ年プラン及び年度計画を立案し、環境法令遵守、省エネルギー・省資源や廃棄物低減を全員参加で取組んでいます。

### トヨテツグループ地球環境憲章（基本方針） 2000年制定

トヨテツ環境方針

オールトヨタ第7次環境取組みプラン（5ヵ年）

### 第5次トヨテツグループ環境取組みプラン（5ヵ年）

### 年度計画（環境保全推進計画）

第5次トヨテツグループ環境取組みプランは、2021～2025年度の活動の目標と計画を定めたものです。  
企業活動における環境重要取組みテーマとして4つに分類し、トヨテツのモノづくりを通じて、地球環境保全と地域社会の持続可能な発展に貢献します。

#### ①脱炭素社会の構築

- \* 温室効果ガス排出量の大幅な削減
  - ・部品軽量化開発
  - ・工場CO<sub>2</sub>排出量低減
  - ・物流CO<sub>2</sub>排出量低減



#### ②循環型社会の構築

- \* 3 R (Reduce, Reuse, Recycle) を通して資源循環の推進
  - ・リサイクルしやすい部品開発、拡販
  - ・排出物の低減と資源の有効活用
  - ・水使用量の低減



### 第5次トヨテツグループ 環境取組みプラン



#### ③自然共生社会の構築

- \* 地域とつなぐ自然保全活動、未来へつなぐ教育
  - ・緑化事業の推進
  - ・世界へつなぐ環境活動の推進



#### ④マネジメント

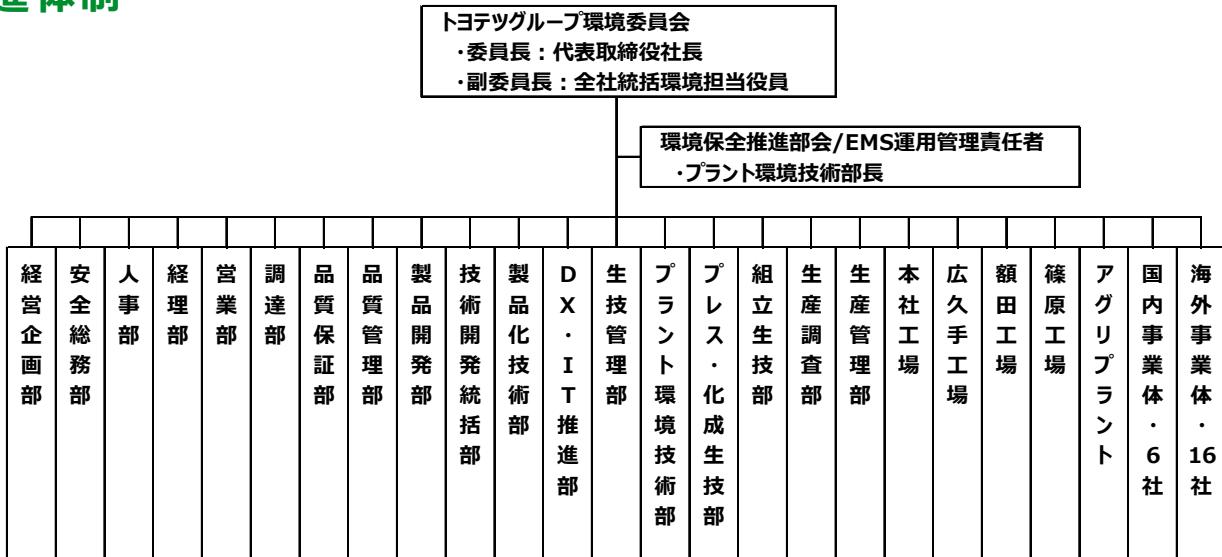
- \* 法令順守、情報の開示とコミュニケーション
  - ・グローバル社員教育
  - ・ビジネスパートナーと連携した環境活動



# 3 環境マネジメント

## 3-3. 環境推進体制と各部リーダーメッセージ

### 推進体制



#### 安全総務部（中牧部長）

業務用車や機器・設備などの定期的な点検やメンテナンスは、単に突発的な故障を低減させるだけでなく、日常業務を効率的に執行するためには不可欠な要素です。今後も資源のムダを省き、適切な管理体制を整え、業務の生産性向上を図っていきます。

#### 人事部（柴崎部長）

人事部は、Well-beingを推進をする中で、人にも環境にも優しい職場づくりを進めます。業務効率化の風土づくりを進めることで、ワーク・ライフバランスを実現させます。その結果、オフィスのムダな電力を減らし、省エネにつなげます。未来の世代のためにも豊かな地球環境を残すよう、みんなで一緒に頑張ろう！

#### DX・IT推進部（林原部長）

業務のDX化を推進し、今年度は全社30,000時間/年以上の工数低減を目指し、同時に電力使用量低減を図ります。また、現在推進しているDX化が紙使用量にも2018年比52%減と大きく貢献しています。今後はAI技術導入し、更なる省エネ・省資源へ繋げ、持続可能な未来を目指します。

#### 組立生技部（中村部長）

2024年11月より操業した組生工場は、太陽光・水素発電を導入し、カーボンニュートラル工場をめざしています。特に水素発電については、実証確認を取りながら、今後の方向性を示していきたいと思っています。また、生産設備を工場に提供する部署として、高効率ライン、省エネラインを常に追求していきます。

#### 生産管理部（永田部長）

TPSの考え方でJITで物を運搬する事にこだわりムダな走行・待機・荷役時間を短縮する事でCO<sub>2</sub>排出を抑制するとともに、積載量・積載重量の管理を徹底し、車両投入台数低減活動も継続します。また、輸送業者と更に連携を深めて、“車両からの油漏れ”ゼロをめざして取組みます。

#### 生産調査部（倉地部長）

TPS・TPMを通じて生産性向上、工程内不良低減を図り、生産ロス・エネルギーロス・資源ロスを削減する事でCO<sub>2</sub>排出量や廃棄物低減を全工場で展開します。また、スマート工場化を推進し、あらゆる情報の見える化（生産状況・エネルギー使用状況・在庫状況など）で更なる業務の効率化を図ります。

# 3 環境マネジメント

## 3-4. 第5次トヨタグループ環境取組みプラン(2021-2025年度)

トヨタは2001年から環境取組みの中期計画を作成しています。2021年から2025年の5ヵ年計画として第5次環境取組みプランを策定し、様々な取組みを進めています。

●付：オールトヨタ環境連携取組み（必須）

○：必須、（○）：一部必須、—：対象外

区分	取組み項目	SDGs	具体的な実施事項など	目標値	主たる実施部署	国内事業体	海外事業体
低炭素（気候変動・CO <sub>2</sub> ）	1 トップクラスの燃費性能を目指す開発	13 気候変動・CO <sub>2</sub> 削減 エネルギー効率化	部品の軽量化によるCO <sub>2</sub> 低減（ライフサイクルによる積上げ）	26,261 t-CO <sub>2</sub> 低減	製品化技術	—	—
	2 次世代車に向けた部品開発		現行ガソリン車から電動車・ZEV変換に伴う部品開発	開発取組み：2部品開発完了：5部品	製品開発技術統括	—	—
	3 物流活動における輸送効率の追求とCO <sub>2</sub> 排出量の低減		輸送効率の一層の改善によるCO <sub>2</sub> 低減活動の推進（徹底した総走行距離の低減）	CO <sub>2</sub> 排出総量▲5%（2020年比）	生産管理	○	—
	4 エコ交通の推進		グローバルでのエコドライブ普及推進とエコ交通への切替え推進、モビリティ拡販	Scope3 排出量削減▲5%（2020年比）	事務局	○	○
	5 生産活動におけるCO <sub>2</sub> 排出量の低減	3 エネルギー効率化 再生エネルギー導入	●1) 低CO <sub>2</sub> 生産技術の開発・導入と日常改善活動によるCO <sub>2</sub> 低減活動の推進 ・生産性向上の追求、オフィス等も含めた活動の展開	CO <sub>2</sub> 排出総量（'13年比） TIW：▲25%（17441t） グローバル：前年比▲6.5%	全社	○	○
			2) 電気使用量原単位低減 (4次プラン目標の'10年度比'25年度▲50%は'19年度に達成済み)	CO <sub>2</sub> 総排出量▲25%低減の内数	全社	○	○
			3) 最新省エネ機器、エネルギー導入への道筋を展開 ①PQ加熱炉の熱利用 ⇒ 繼続的に推進する ②世間状況を見て省エネ機器、エネルギー導入への道筋を立てる	CO <sub>2</sub> 総排出量▲25%低減の内数	プラ環事務局	—	—
			●4) 各国、各地域の特性を考慮した再生エネルギーの導入（購入含む） ・一步として自家消費出来る太陽光発電等の設置（投資回収を見ながら） 水素活用、CO <sub>2</sub> 排出権購入等の検討を進める	（再エネ導入率 TIW：5%以上）	プラ環各工場事務局	（○）	（○）
循環（資源・水）	6 生産活動における水使用量の低減	6 水資源循環 8 資源循環	●各国、各地域の水環境事情を考慮し、継続的な水使用量低減活動を推進 ①雨水利用拡大、工場排水の循環リサイクル、クリーニングタワー更新 ②日常改善など各種取り組みによる水使用量低減	総使用量▲5%（2020年比）	全社	○	○
	7 資源回収しやすい易解体性の実現（環境配慮設計の継続取組み）	9 資源循環 12 リサイクル	●新技術・新材料部品の易解体構造の開発・織込み・拡販	開発完了：5部品	製品化技術	（○）	—
	8 生産活動における排出物の低減と資源の有効利用	10 自然・生物多様性保全を“世界へつなぐ”環境活動の推進	●1) 歩留まり向上等の発生源対策による排出物低減と資源の有効利用促進	総排出量▲5%（2020年比）	全社	○	○
			●2) 有価物・廃棄物の発生量低減等、資源ロス低減活動の推進		各工場事務局	○	○
自然共生	9 各事業所・各地域の活動を“地域とつなぐ”自然保全活動の推進	11 地域活性化 13 環境教育	●自然保全の活動を地域とつなぐ ・これまでのサステイナブル・プラント活動の継続と、オールトヨタのさまざまな活動を、海外・関連会社や地域へ広げる、ステークホルダーとの連携で活動の輪を広げる。	自然と共生する工場 国内 1ヶ所増	計画部署事務局	○	○
	10 自然・生物多様性保全を“世界へつなぐ”環境活動の推進	15 環境保全 16 環境リスク	●環境保全・生物多様性保全の活動を世界とつなぐ ・TIWの活動をグローバルに展開	海外 2ヶ所増	事務局	○	○
	11 環境活動を“未来へつなぐ”環境教育の強化	13 環境教育	●各地域の事業所やフィールドを活用した環境教育を強化し、環境保全活動を未来へつなぐ ・工場の森、事業所の緑・ヒオトープなどを活用した地域住民・子供教育をグローバルに拡大していく	トヨタの森で環境教育プログラム継続実施	人事事務局	—	—
	12 緑化事業などによる環境貢献の推進		●1) 緑化事業などを通じた、温暖化・気候変動「適応」貢献	グリーンウェーブ継続	事務局	○	○
マネジメント	13 連結環境マネジメントの強化推進	7 環境保全 16 環境リスク	●1) 国内外における環境活動の充実による各、各地域での全事業活動にかかる環境パフォーマンス（CO <sub>2</sub> 低減・ランクアップ活動、水低減など）確保に向けた活動の強化	活動状況の共有（経営会議）	事務局	○	○
			●2) 各国、各地域の環境法令遵守と環境リスクの未然防止活動の徹底強化	異常苦情・ヒヤリゼロ IMDS入力不備〇件	全社 技術統括事務局（TEC）	○ ○	○
	14 各国、各地域の都市大気環境改善に資する排ガス低減	16 環境リスク	●各国、各地域の都市環境改善に資する低排出ガス車を着実に導入	ZEV車積極導入	安全総務	○	○
	15 生産活動におけるVOCの低減	3 エネルギー効率化	塗装工程における塗料、シンナー（トルエン、キシレン等）の低減等VOC低減活動の推進 ・塗装設備改装計画と連動した取り組みと日常改善によるVOC低減を継続的に推進	VOC▲5%（2020年比）	各工場	（○）	（○）
	16 ビジネスパートナーと連携した環境活動の推進	7 環境保全 17 環境リスク	●仕入れ先との連携を一層強化し、オールトヨタで共に環境を良くする活動を推進 ①CO <sub>2</sub> 低減、資源循環、水インバウト低減、自然共生社会の構築等、幅広い環境取り組みを連携して推進 ②TOYOTAグリーン調達ガイドラインの取り組みをオールトヨタに展開	仕入先環境フォロー会社の拡大	調達事務局	○	○
	17 グローバル社員教育・啓発活動の一層の強化	4 環境教育	●グローバルで、従業員への環境教育を通じた環境保全意識の啓発推進 ①国内外事業体と連携した環境教育の推進（グローバル環境担当ミーティング） ②各国、各地域の実情に合わせた環境教育の実施	グローバルで共通の教育資料作成	人事事務局	○	○
	18 環境情報の積極的開示とコミュニケーションの充実	14 環境情報開示 12 環境報告書	●1) 環境の情報開示の一層の充実 ①環境情報の収集対象とする事業体の拡大とその仕組みづくり	ODPランク“B”維持	事務局	—	—
			②環境報告書の更なる内容充実	国内外事業体内容拡大	事務局	—	—
			●2) グローバル及び各国、各地域での環境のコミュニケーション活動の充実	1回/年 以上	事務局	○	○

# 4 2024年度取組み結果

トヨタは第5次環境取組みプランに基づき、自動車部品の開発・設計、生産、物流のあらゆる段階において、温室効果ガス及び排出物の削減に取組んでいます。

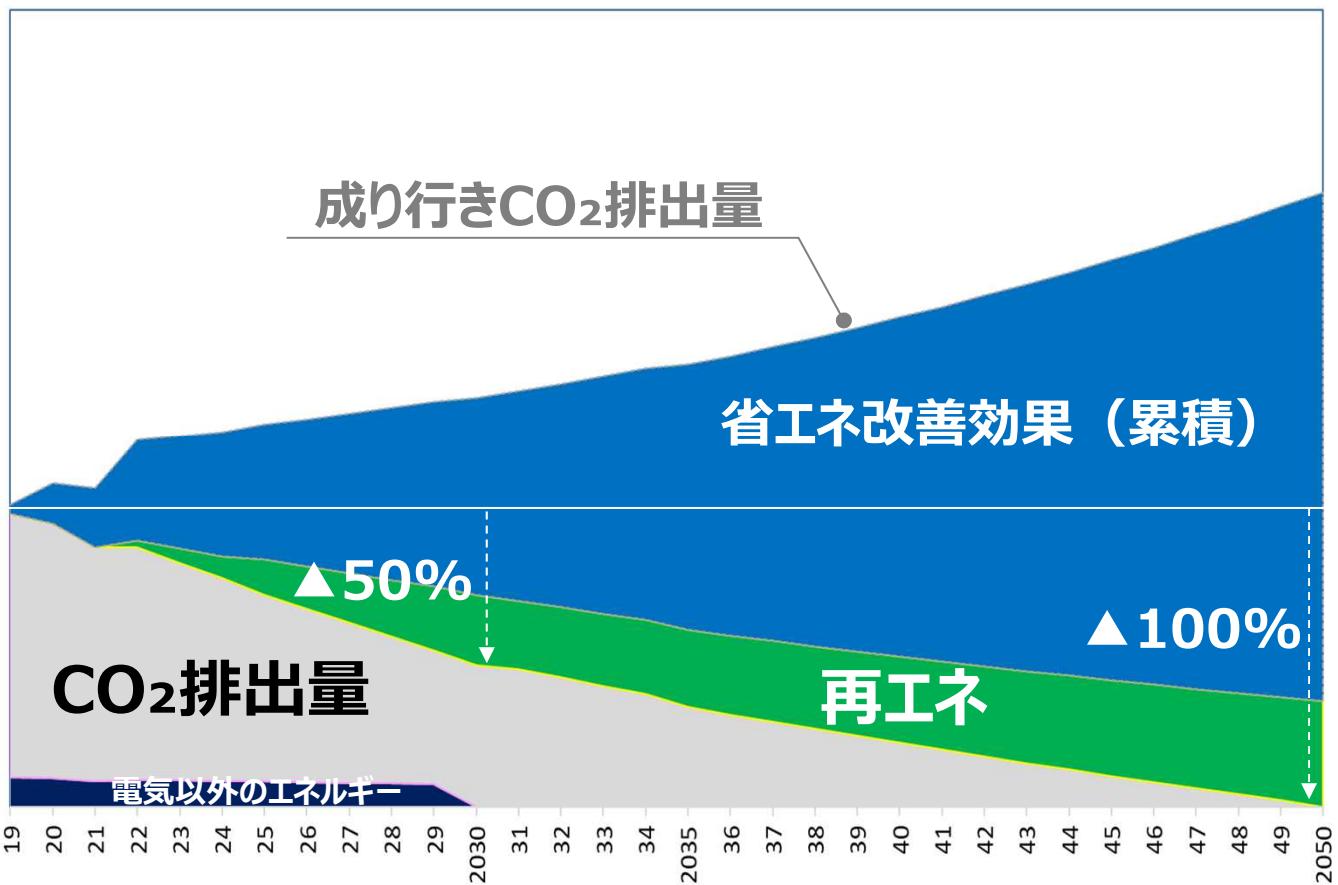
2024年度 トヨタグループ環境取組みプラン

達成: ☀ 未達: ☁ 重大な欠陥: ☂

区分	取組み項目	SDGsつながり	基準年	主な実施内容	目標値	結果				
						TW	国内事業体	海外事業体		
低炭素（気候変動・CO <sub>2</sub> ）	1 トップクラスの燃費性能を目指す開発	13 生態系保全活動 1 地域社会貢献活動 3 生産活動における輸送効率の追求とCO <sub>2</sub> 排出量の低減 4 エコ交通の推進	23年度	・部品の軽量化	16,188 t-CO <sub>2</sub> 低減	16,551t-CO <sub>2</sub>	☀			
	2 次世代車に向けた部品開発			・電動車・ZEV変換に伴う部品開発	開発取組み：2件 開発完了：2件	開発取組み：3件 開発完了：1件	☀			
	3 物流活動における輸送効率の追求とCO <sub>2</sub> 排出量の低減		20年度	・トラックダイヤの見直し ・走行ルートの見直し ・車両あたりの積載量を増やす	CO <sub>2</sub> 排出総量▲4% (2020年比)	▲30.0%	☀	排出総量	☀	
	4 エコ交通の推進		20年度	・エコドライブの実践 ・環境に配慮した移動手段の実践 (業務用車ハイブリッド化、通勤自転車車両)	業務用車CO <sub>2</sub> ▲1%	▲6.3%	☀	エコドライブ	☁	
	5 生産活動におけるCO <sub>2</sub> 排出量の低減		19年度	・ランクアップ活動の推進、展開 ・省エネ機器の導入	TM目標：総量 18,924t-CO <sub>2</sub> 以下 工場目標：原単位 0.31t-CO <sub>2</sub> /百万円 以下	TW：総量 18,710t-CO <sub>2</sub> 工場：原単位 0.31t-CO <sub>2</sub> /百万円	☀	総量 9拠点 10拠点 (拠点ごとの目標)	原単位 14拠点 5拠点	
				・工場×生技×環境改善活動で省エネ加速 (事業体はTWの内容を横展)			☀			
			19年度	・生産性の向上（頻発停止、工程内不良低減など）			☀			
			20年度	・関係部署と連携し老朽設備更新時の省エネ設備導入 ・最新機器の効果検証を行い提案	計画の達成	計画通り	☀			
				・再生エネルギー購入実現に向けた量、金額、CO <sub>2</sub> 低減 の効果を出し購入に備える (太陽光、水力、風力、バイオマス)	太陽光発電導入 計画の達成 再エネ率 5%	計画通り 22.4%	☀	計画	☀	
循環（資源・水）	6 生産活動における水使用量の低減	6 生産活動における水使用量の低減 7 資源回収しやすい易解体性の実現 (環境配慮設計の継続取組み)	19年度	・雨水の利用、工場排水利用の為のシステム検討 ・オールトヨタ一丸となった節水の取り組み	総使用量▲5% (2019年比) 原単位評価も可	総量+0.8% (原単位▲29.0%)	☁	総使用量	☁	
			・易解体構造部品の開発・織込み・拡販	☀						
	19年度		・発生源対策及び不良低減による排出量の抑制 ・ペーパーレスの推進(PDF化、保管方法見直しなど)	総排出量▲5% (2019年比) 原単位評価も可	総量+1.5% (原単位▲28.5%)	☁	総排出量	☀		
			・廃棄物の有効化検討			☀	総排出量	☁		
自然共生	9 各事業所・各地域の活動を”地域とつなぐ”自然保全活動の推進	11 環境美化活動 15 緑化活動 16 環境活動を「未来へつなぐ」環境教育貢献の強化 17 緑化事業などによる環境貢献の推進		・豊田市及びEPOC各分科会と連携して活動の輪を広げる	HPに活動を発信	活動を掲載	☀			
	10 自然・生物多様性保全を”世界へつなぐ”環境活動の推進			・緑化活動、環境美化活動参加(グリーンウェーブ継続)	各1件以上	各1件以上	☀	美化緑化	☀	
	11 環境活動を「未来へつなぐ」環境教育貢献の強化			・トヨタの森生物多様性保全の紹介	見学会実施	県議会(7月) とよてつ社友会(11月)	☀			
	12 緑化事業などによる環境貢献の推進			・トヨタの森を活用した教育プログラム実施	2回実施	3回実施	☀			
				・ヒートアイランド対応 (壁面緑化、高性能遮光塗料の普及拡大)	1件以上	グリーンカーテン実施	☀	☀	☀	
	13 連結環境マネジメントの強化推進			・国内外事業体の環境パフォーマンス報告 (経営会議にて)	2回/年	2回/年	☀			
マネジメント	14 各国、各地域の都市大気環境改善に資する排ガス低減	3 業務用車のCO <sub>2</sub> 低減 17 ビジネスパートナーと連携した環境活動の推進 14 グローバル社員教育・啓発活動の一層の強化 18 環境情報の積極的開示とコミュニケーションの充実		・テレビ会議による環境交流会 (ランクアップ活動フォロー、情報共有等)	実施100%	100%	☀	☀	☀	
	15 生産活動におけるVOCの低減			・異常苦情にヤリ0件	ヒヤリ3件	☁ 0件	☀ 0件	☀	☀	
	16 ビジネスパートナーと連携した環境活動の推進			・工場インフラ老朽化による環境異常発生未然防止 :危険マップ作りと中長期整備計画作成	未然防止活動の 計画推進	☀	計画通り	☀	☀	
	17 グローバル社員教育・啓発活動の一層の強化			・国内外事業体の環境法令順守チェック及びフォロー	実施100%	100%	☀ 100%	☀ 100%	☀	
				・IMDS入力不備0件	0件	☀ 0件	☀ 0件	☀	☀	
	14 各国、各地域の都市大気環境改善に資する排ガス低減			・業務用車(更新車両)の低排出ガス車に切り替え	対象車100%	100%	☀	おおむね☀		
	15 生産活動におけるVOCの低減			・VOC低減対策を継続実施	1件以上	1件以上	☀	おおむね☀		
	16 ビジネスパートナーと連携した環境活動の推進			・仕入れ先に対する環境パトロールの実施・フォロー	計画の達成	計画通り	☀	おおむね☀		
	17 グローバル社員教育・啓発活動の一層の強化			・赴任者環境教育の継続	実施100%	100%	☀	教育実施	☀	
	18 環境情報の積極的開示とコミュニケーションの充実			・TV会議開催 フォロー	CNミーティング実施	☀				

# 5 脱炭素社会に向けた取組み

## 5-1. CNロードマップ



日常改善	エネルギー使用量の見える化
	生産性向上活動
	材料歩留まり向上活動・物流改善
	MOTTAINAI活動・ランクアップ活動
技術革新	からくり機構推進
	省エネ機器・工商品への切替え
	部品の軽量化
	部品点数の削減・造りやすさ改善
カーボンオフセット	低CO <sub>2</sub> またはCO <sub>2</sub> フリー素材へ切替え
	各種エネルギーを電気へ切替え
	太陽光発電システム導入
	植樹
	水素発電システム導入
	再エネ電力購入
	森林保全(自社所有)
	再エネ証書(クレジット)購入

# 5 脱炭素社会に向けた取組み

## 5-2. 生産活動における実績総括（入・出）

\* トヨテツ単体の値を示す。  
( ) 内は2023年度の数値。

### インプット

#### エネルギー使用量

[電気]		49,067 MWh (52,106)
[ガス]	都市ガス	748 km <sup>3</sup> (463)
		LPG 16 t (15)
[燃料]	ガソリン	1.4 kℓ (1.5)
		軽油 36.4 kℓ (35.2)
		灯油 0.4 kℓ (0.2)

#### 取水量

[市水]		34,681 m <sup>3</sup> (34,961)
[工業用水]		24,667 m <sup>3</sup> (26,631)
[地下水]		18,204 m <sup>3</sup> (16,007)

#### その他の使用量

[鋼材]		142,632 ton (165,340)
[樹脂]		1,231 ton (1,291)
[銅]		359 ton (313)
[化学物質]		10.3 ton (11.1)

### アウトプット

#### CO<sub>2</sub>排出量 (証書購入含む)

[スコープ1]		1,757 t-CO <sub>2</sub>
[スコープ2]		(1,117) 16,953 t-CO <sub>2</sub>
[スコープ3]		(18,703) 1,051,206 t-CO <sub>2</sub> (1,111,476)

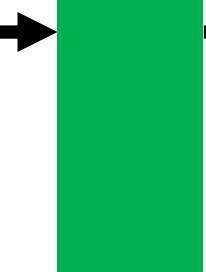
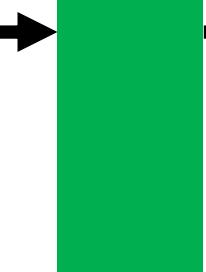
#### スコープ3内訳

- ▷ カテゴリ1: 購入した製品・サービス  
986,882 t-CO<sub>2</sub>  
(1,064,137)
  - ▷ カテゴリ2: 資本財  
57,478 t-CO<sub>2</sub>  
(39,544)
  - ▷ カテゴリ4: 輸送・配送(上流)  
2,140 t-CO<sub>2</sub>  
(2,152)
  - ▷ カテゴリ5: 廃棄物  
203 t-CO<sub>2</sub>  
(352)
  - ▷ カテゴリ6: 出張  
1,920 t-CO<sub>2</sub>  
(2,495)
  - ▷ カテゴリ7: 従業員の通勤  
2,583 t-CO<sub>2</sub>  
(2,797)
- ※カテゴリ3,8~15は該当なし。

#### その他の排出量

[廃棄物]		266 ton (298)
[有償]		59,309 ton (66,421)
[社内リサイクル]		56 ton (55)
[化学物質]		0.03 ton (0.03)

トヨテツの事業活動



# 5 脱炭素社会に向けた取組み

## 5-3. 生産活動におけるCO<sub>2</sub>排出量低減実績

### CO<sub>2</sub>排出（工場）

改善低減分での目標と結果(電源係数変動分を含まない)

※CO<sub>2</sub>削減目標は2019年度より毎年▲3.2%積み上げ

総量：目標▲12.2% ⇒ 結果 ▲22.7% [証書含む]  
 (18,924t-CO<sub>2</sub>) (18,710t-CO<sub>2</sub>)



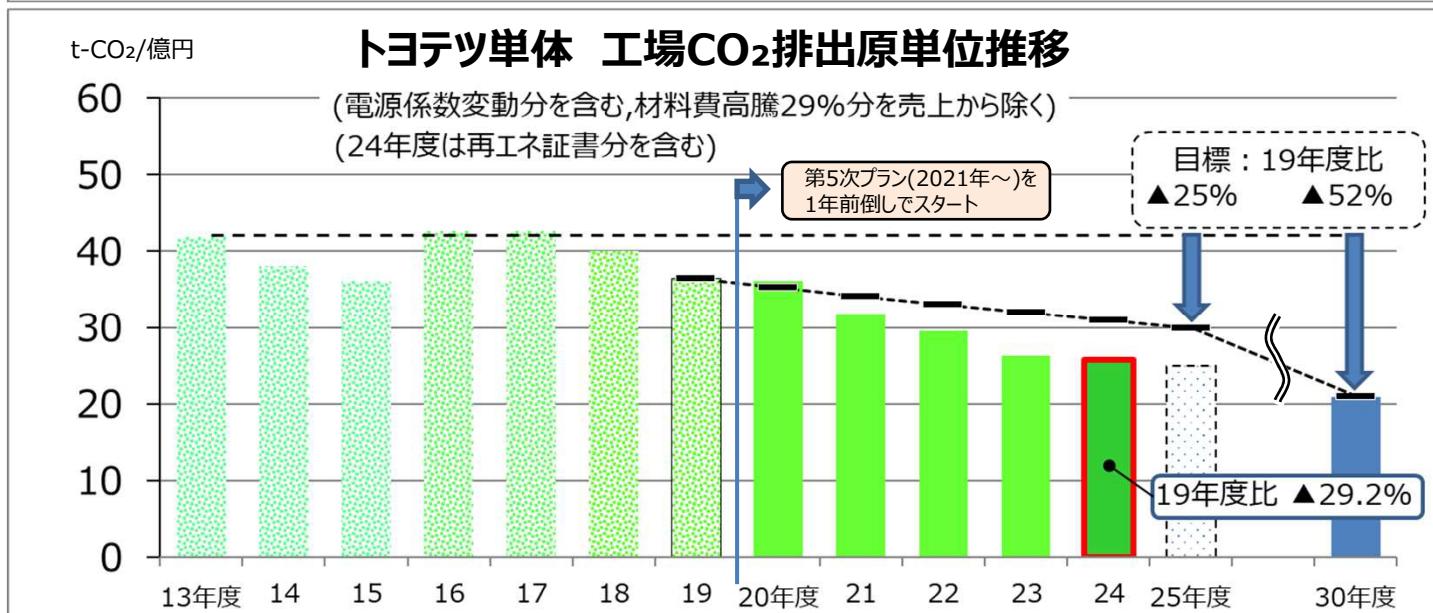
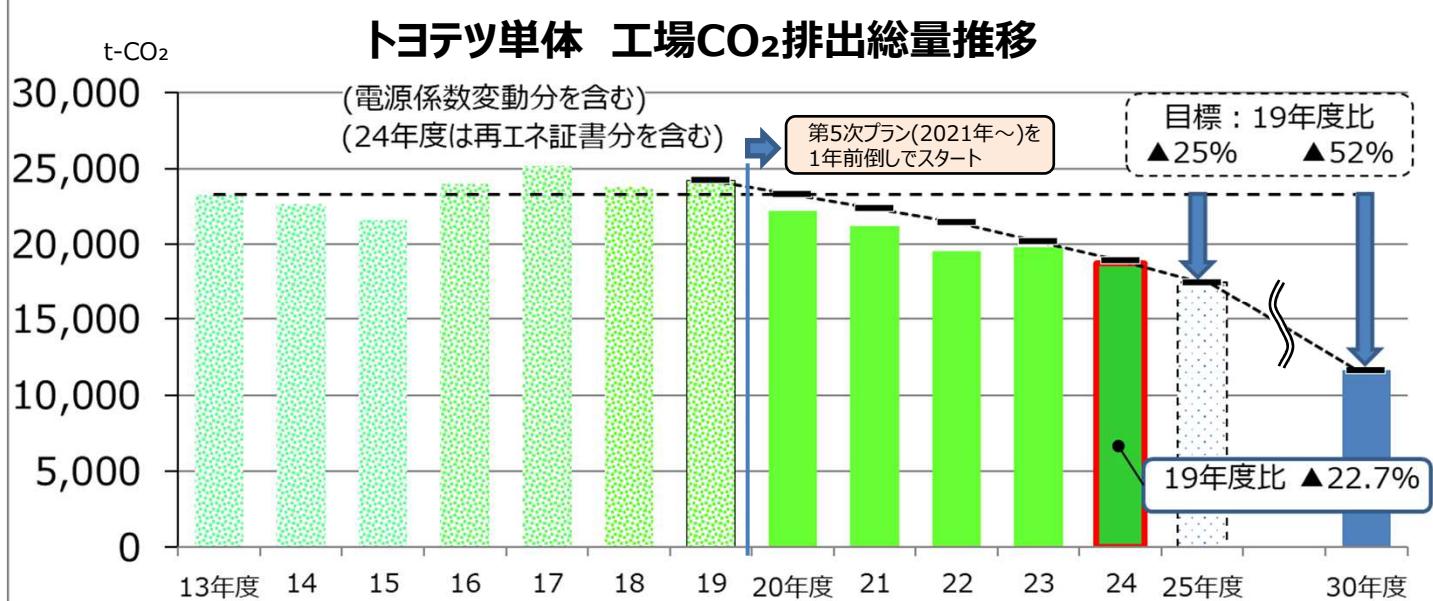
原単位：目標▲15.1% ⇒ 結果 ▲29.2% [証書含む]



\*原単位：排出総量 / 売上

▲4.5% [証書含まず]  
 (23,102t-CO<sub>2</sub>)

▲12.6%[証書含まず]



### 考察)

原単位評価では毎年いい結果が出ており、組織としてのチカラは十分にあるが、まだまだ個々での取りこぼしがある。待機電力を徹底的に削減し、電気のジャストインタイムを強化しなければならない。

# 5 脱炭素社会に向けた取組み

## 5-4. 事技部門におけるCO<sub>2</sub>排出量低減実績

### CO<sub>2</sub>排出（本館）

※CO<sub>2</sub>削減目標は前年度比▲1%（2024年度より目標設定）

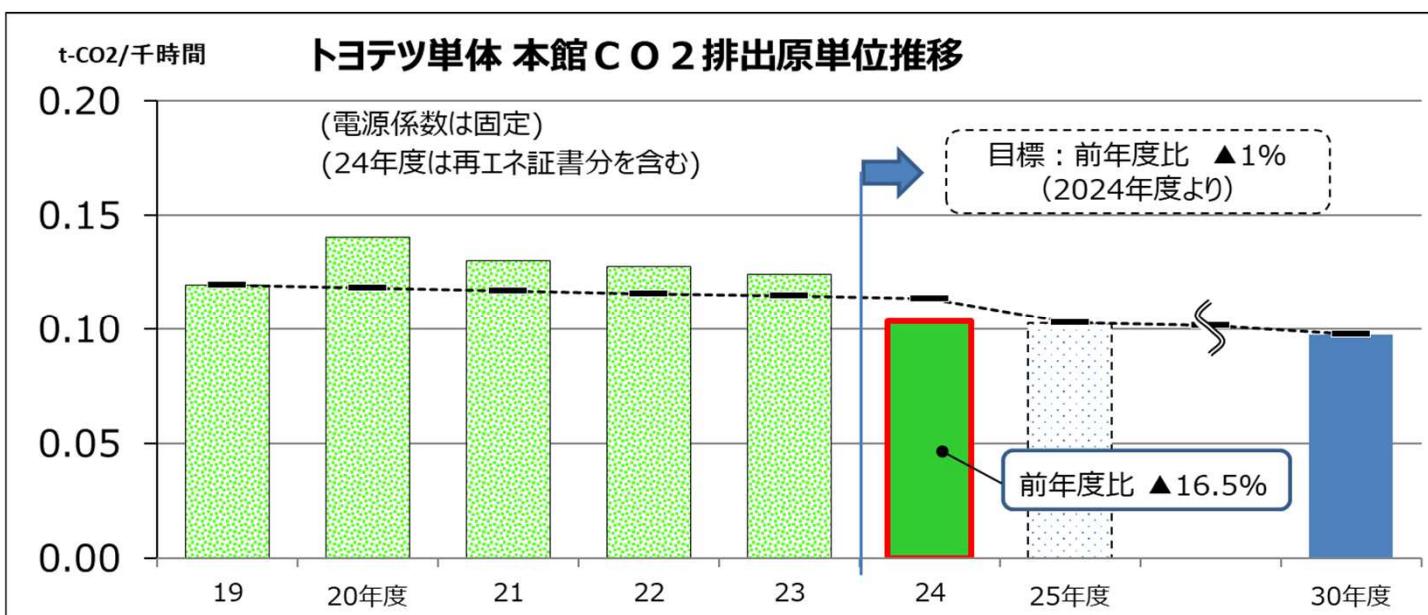
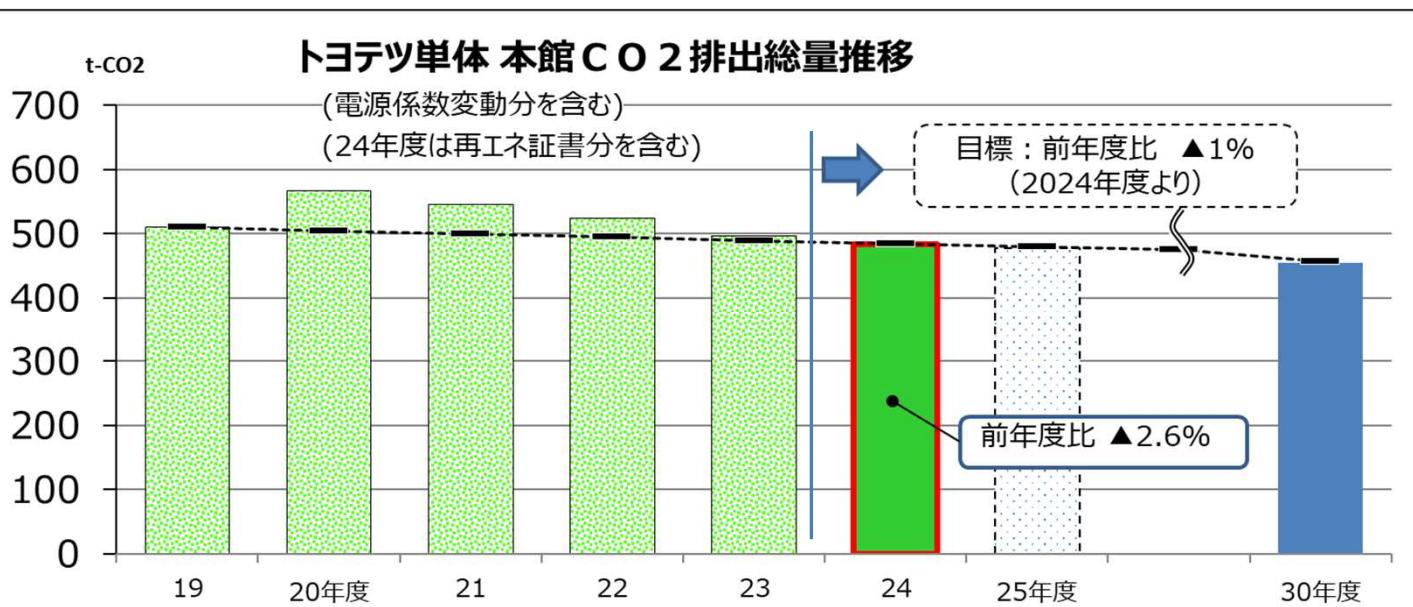
総量：目標▲1% ⇒ 結果▲2.6%



原単位：目標▲1% ⇒ 結果▲16.5%

\* 原単位：排出総量 / 本館在籍者総工数

改善低減分での目標と結果(電源係数変動分を含まない)



### 考察)

電灯・コンセント電力（LED化・照明SW細分化・CATIA端末削減）で省エネ効果は出てるが、夏・冬の空調電力は増加傾向。更なる省エネ取組みと業務生産性向上が必要である。

# 5 脱炭素社会に向けた取組み

## 5-5. 新工場建設におけるCN取組み

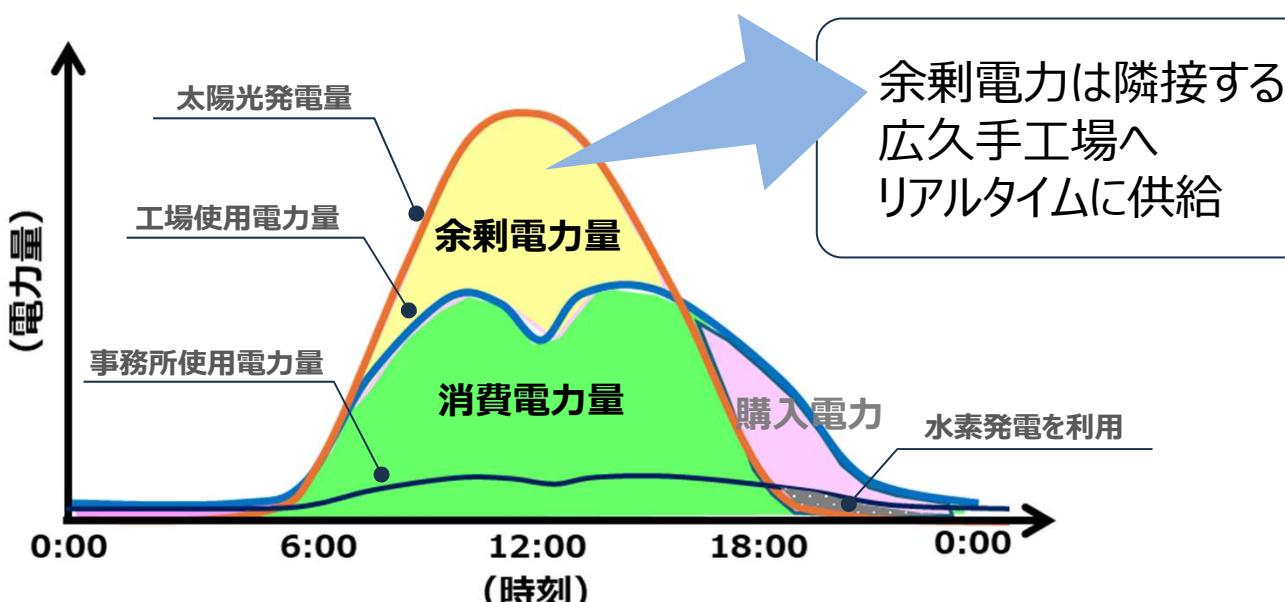
### ◆組立生産技術工場（2024年11月竣工）

企画設計段階から省エネ、省資源のアイデアを織込みと太陽光と水素発電システムを導入で、**実質カーボンニュートラル工場**を実現



区分		太陽光でつくった電気	水素でつくった電気	電力会社から購入した電気
昼間	工場	○(*1)	—	—
	事務所	○	—	—
夕刻 夜間	工場	—	—	○(*1)
	事務所	—	○	—

(\*1) : 太陽光発電量 > 購入電力量で相殺

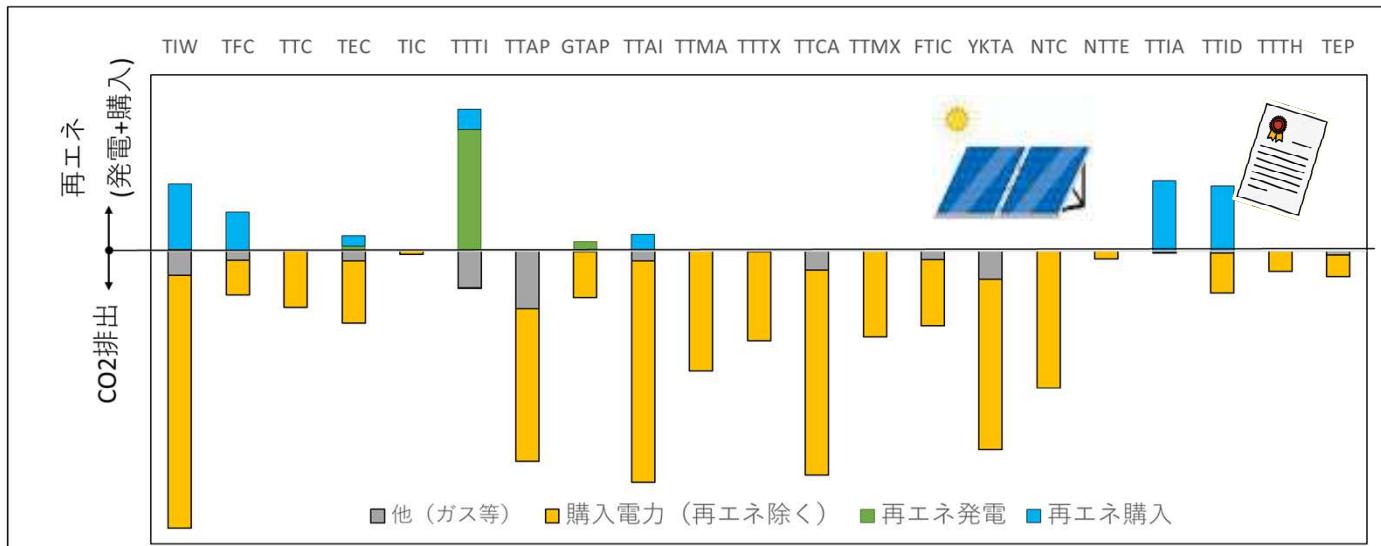


# 5 脱炭素社会に向けた取組み

## 5-6. トヨタグループの再生可能エネルギー取組み状況

### ◆トヨタグループの再エネ状況

再エネ電力使用率（2025年3月末時点）：TIW 22.4% ・ グループ 15.0%



### 太陽光発電システム 2024年度導入実績

(TIW : TOYODA IRON WORKS CO.,LTD)

No	拠点名	地域	設置場所	種類	年間発電量	運用開始時期
1	トヨタアメリカ TTAI	米国	事務所前庭	太陽光	21MWh/年	2024年5月
2	テクノエイト TEC		生産工場		384MWh/年	2024年6月
3	豊田鉄工 TIW	日本	組生工場	太陽光&水素	352MWh/年	2024年11月
4	トヨタ福岡 TFC		生産工場		460MWh/年	2025年2月
5	豊田鉄工 TIW		本館＆駐車場	太陽光	137MWh/年	2025年3月



### 再生エネルギー設備 2025年度導入計画

No	拠点名	地域	種類	年間発電量	運用開始時期
1	豊田鉄工 TIW	日本	太陽光	1,357MWh/年	2026年3月
2	テクノエイト TEC			913MWh/年	

トヨタグループは、2050年カーボニュートラル達成に向けて、徹底的に省エネ活動を推進し、再生可能エネルギーの導入にも積極的に取組んでいます。

# 6 循環型社会に向けた取組み

## 6-1. 生産活動における水使用・廃棄物排出実績

### 水使用量

※水使用量削減目標：2019年度より毎年▲1.0%積み上げ

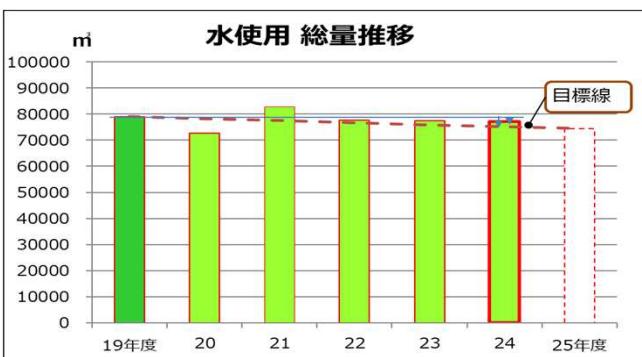
総量 : 目標▲5.0% ⇒ 結果▲2.5%  
 (▲3,162m<sup>3</sup>) (▲1,959m<sup>3</sup>)



原単位 : 目標▲5.0% ⇒ 結果▲31.3%



\*原単位 = 排出総量 / 売上



- 主な低減内容 : ・冬季の排水処理加温による希釈水低減 ・雨水の活用
- 今後の主な取組み : ・排水処理工程で窒素値オーバー時の希釈水運動化による水使用量低減(本社工場)

### 廃棄物排出量

※廃棄物削減目標：2019年度より毎年▲1.0%積み上げ

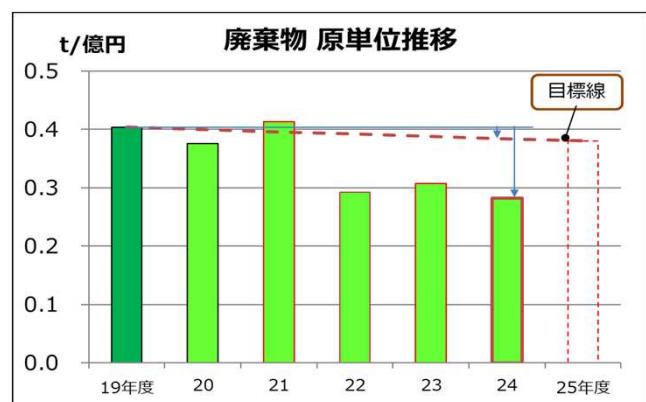
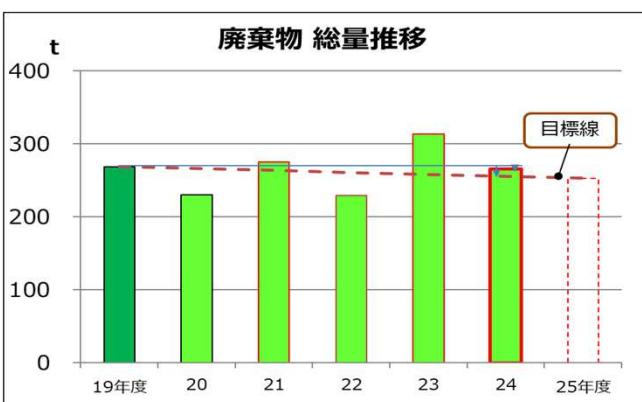
総量 : 目標▲5.0% ⇒ 結果▲1.0%  
 (▲13.4ton) (▲2.5ton)



原単位 : 目標▲5.0% ⇒ 結果▲30.2%



\*原単位 = 排出総量 / 売上



- 主な低減内容 : ・加工油再利用による廃油低減
- 今後の主な取組み : ・排水処理汚泥実量低減と重量軽減策（軽量化）の検討

# 7 改善

## 7-1. 生産工場における改善実施内容 1

本社工場



### 排水処理施設屋根遮熱塗装による省エネ

スレート屋根に遮熱塗装をすることで施設内の温度低下と  
冷房負荷を低減

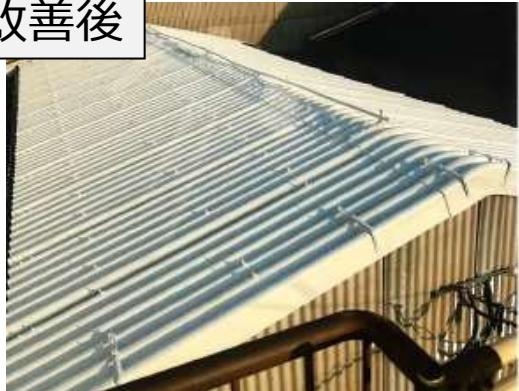
ナオス

効果：1.06t-CO<sub>2</sub>/年 削減

改善前



改善後



広久手工場



### 材料倉庫廃止によるムダ削除

3回/日、材料倉庫(プレハブ構造)で材料発注を行っていた業務を  
事務所で行えるように改善し、材料倉庫が撤去できた事で  
そこで使用する電力(OA機器、空調、照明など)を削減

ナクス

効果：

0.16t-CO<sub>2</sub>/年 削減



# 7 改善

## 7-1. 生産工場における改善実施内容2

額田工場



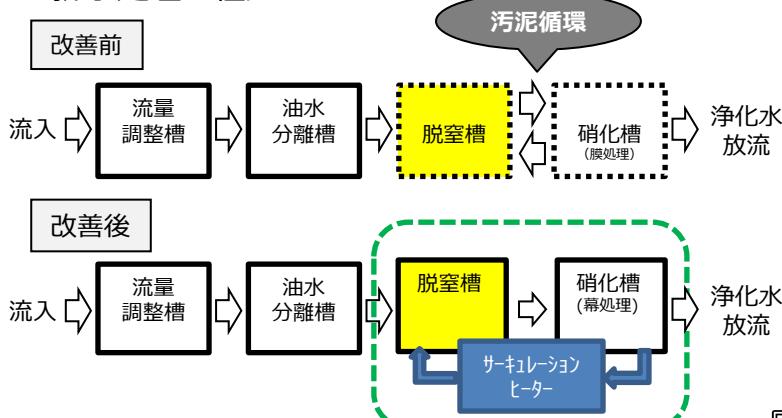
### 排水処理加温機設置による水使用量低減

生活排水の排水処理施設において冬季の窒素処理能力不足を解消するため加温機を設置し、希釀水を低減

カエル

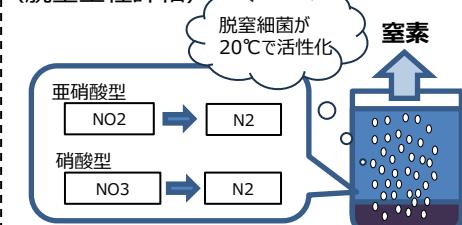
効果：1,240m<sup>3</sup>/年 削減

<排水処理工程フロー>



冬季に水温が低いと窒素値が上昇するため希釀水を投入

(脱窒工程詳細)



脱窒細菌が酸素を取り、曝気させることで排水から窒素を抜く

脱窒層と硝化槽の循環工程に『サーキュレーションヒーター』を取り付け、処理中の汚水を温め、水20℃を維持させ窒素の値を下げる。

篠原工場

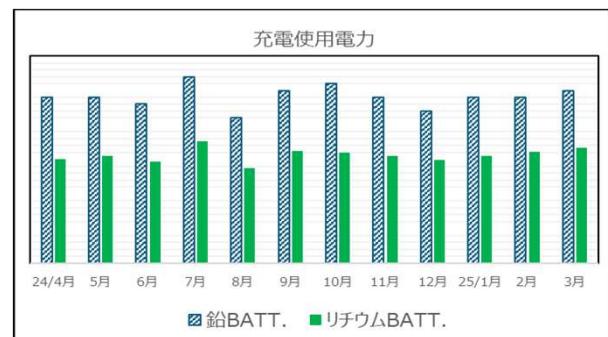


### 小型運搬具バッテリー変更によるCO<sub>2</sub>低減

鉛バッテリーからリチウムバッテリーに変更する事で、約1.5倍の充電効率が向上し、電力使用量を低減  
(4台中全数交換済)

カエル

効果：0.44t-CO<sub>2</sub>/年 削減



# 7 改善

## 7-2. 生産技術部門における改善実施内容1

プレス化成生技部



### 刃物変更による金型機械加工時間低減

カエル

新刃物で加工条件を見直し、金型機械加工時間を短縮する事で使用電力量を低減

効果：2.5t-CO<sub>2</sub>/年 削減

\* 大型加工機の使用電力量、金型製作ライン数などから算出

<主な刃物用途>

- ・裏面仕上げ用
- ・底面仕上げ用
- ・側面荒取り用

項目	変更前	vs	変更後
切削速度	△	<	○
	* 部位によって速度ダウン		* どの部位でもほぼ定速
刃物寿命	○	≒	○
コスト	○	≒	○



組立生技部



### チップコレクター電動化によるエア使用量削減

スポット溶接工程では、規定の溶接打点数毎のチップドレッサーで研磨して出た切粉を回収装置をエア式から電動式にすることで、CO<sub>2</sub>排出量を低減

効果：2.36t-CO<sub>2</sub>/年 削減

カエル

改善前



エア式

改善後



電動式

# 7 改善

## 7-2. 生産技術部門における改善実施内容2

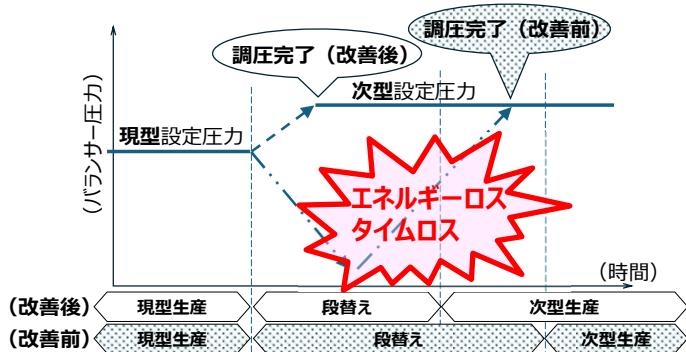
プラント環境技術部



### プレスエア調圧方式変更によるエア使用量低減

金型の上型重量に合わせてスライドのカウンターバランサーの圧力調整において、自動金型交換では一旦エアを全排気してから、次型設定値のエア圧力調整を行っていた。そこで現型圧から次型圧に直接、調整できるように変更し、エアの消費量低減

カエル



算出条件

- ①段替え回数14回/直 ②上型重量12.5ton  
 $(14 \times 12.5 \times 474 = 89,950(\text{ANR})/\text{直})$
- エア使用量 : 89,950 ℥ / 直 ≈ 43,895kℓ/年  
(244日/年)
- 電気量換算 : 6,168kwh/年

効果 : CO<sub>2</sub>排出量低減 2.8t-CO<sub>2</sub>/年



### 小便器設備保護洗浄設定見直しによる水使用量低減

本館に設置された全37個の小便器の設備保護洗浄機能の設定を見直し適当な洗浄回数にすることで水使用量を低減

\* 改善後、臭いなどの苦情は出ていない

カエル

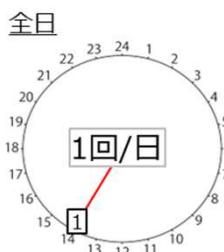
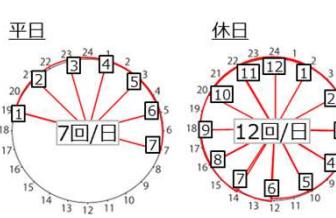
効果 : 上水使用量 : 148m<sup>3</sup>/年 削減

改善前

改善後

未使用の状態が2時間続くと  
2 ℥ の水で洗浄

24時間で1回4 ℥ の水で洗浄



# 7 改善

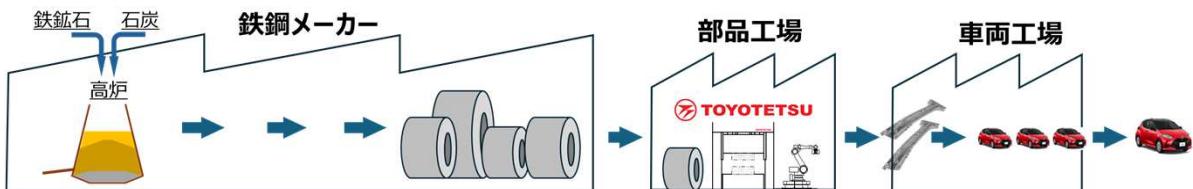
## 7-3. 技術開発部門における改善実施内容

### 技術開発本部



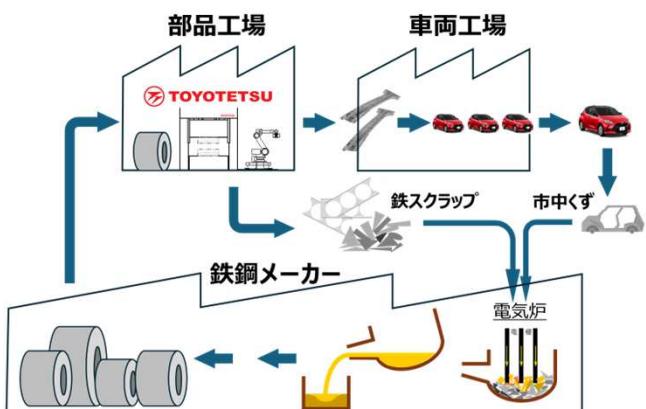
#### サーキュラーエコノミーの取組み

従来品



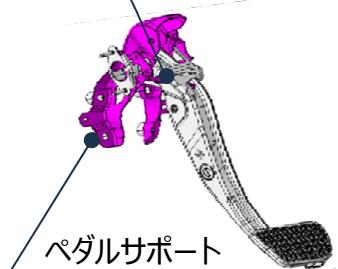
\* 高炉で鉄鉱石や石炭を熱で溶かして材料をつくる

開発品



\* 回収された鉄スクラップや  
市中くずを電気炉で溶かして  
つくる工法は、従来の高炉で  
つくる工法に比べて、工程中  
に発生するCO<sub>2</sub>排出が少ない

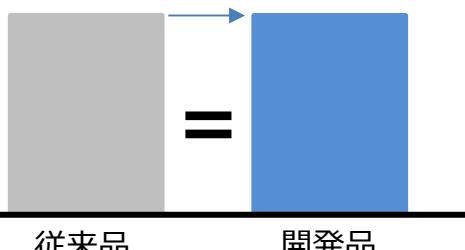
バンパーブラケット



ブレーキペダル(重要保安部品)で採用  
\* 機械的特性の変化による製造で問題なし  
\* 部品性能評価に問題なし

### 効果

・コスト



・CO<sub>2</sub>排出量



鉄1kgあたりの  
CO<sub>2</sub>排出量を  
73%削減



# 自然共生社会に向けた取組み

## 8-1. トヨテツの自然共生・生物多様性



東の矢作川と西の丘陵地帯を結ぶ中間に位置するトヨテツは、敷地内に“**トヨテツの森**”をつくり、豊田市における『生態系ネットワーク』の一端を担っています。

### 「トヨテツの森」のテーマ

- ①地域と**つなぐ**自然保全活動の場
- ②生物多様性保全を世界へ**つなぐ**環境発動発信基地
- ③環境活動を未来へ**つなぐ**教育の場



Google Earthより



Google Earthより

# 8 自然共生社会に向けた取組み

## 8-2. トヨテツの森での活動 1



### 2024年 トヨテツの森でイベントを開催



4月6日 参加者：18名 内容：生き物探し、間伐材ベンチ製作、花見



#### <従業員親子からのコメント>

春の陽気で生き物を多く見る事ができました。間伐ベンチの皮むきは初体験でうまく皮がはがれず苦労しましたが、参加者の皆さんと協力して完成させることができました。親子で貴重な体験ができました。



9月28日 参加者：47名（豊田市とコラボ 市民含む） 内容：生き物探し



#### <市民の親子からのコメント>

工場に隣接するビオトープを見る事ができました。トンボやちようちょ、バッタを見つけては、レンジャーさんから説明をしてもらいました。生き物を探す事が好きになりました。

12月14日 参加者：37名 内容：生き物探し、リース作り、クリスマス会



#### <従業員親子からのコメント>

森の手入れを行いながら、藤のツル処理もみんなで行い、リースづくりの材料にしました。リースの大きさを確認しながらくるくると丸く巻いて飾りつけを行い、オリジナルのリースが完成した時には、子供が喜んでくれました。参加して良かった！

# 8 自然共生社会に向けた取組み

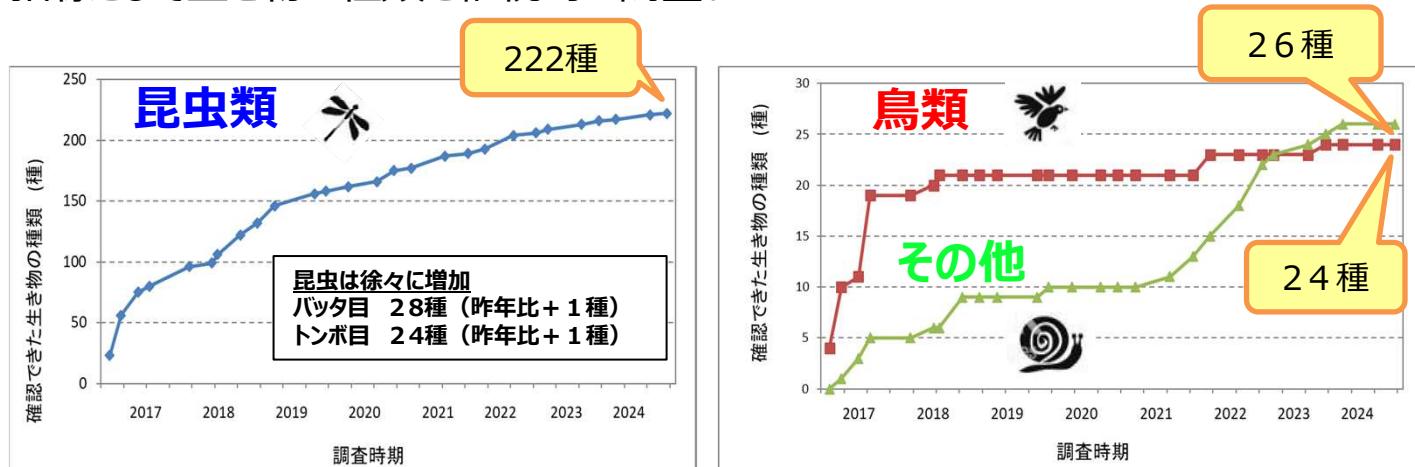
## 8-2. トヨテツの森での活動 2

### ● トヨテツの森で生き物観察（森のイベント内）



### ● トヨテツの森で生き物調査状況

年3回の計画で、専門家3名と共同で芝生エリア、ビオトープエリアでの生物多様性の指標として生き物の種類を継続的に調査。



### 24年度に新たに仲間に加わった生き物たち



累計272種の生き物が確認されました。

# 8 自然共生社会に向けた取組み

## 8-3. 環境保全活動

### ◆トヨテツの森の取組みが、

『自然共生サイト』にて認定されました。(2024年3月)

\* 自然共生サイト：

環境省が2023年から民間の取組みなどで、  
生物多様性の保全が図られている地域を『自然共生サイト』として認定



『OECM』に登録されました。(2024年8月)

\* OECM：国際的なデータベース

「Other Effective area-based Conservation Measures」の略



(2025年3月時点で愛知県内で「自然共生サイト」認定を受けているエリアは21カ所)

### ◆額田工場敷地内の森林を整備 (2024年3月～)



\* 森林面積：約7.5ha

(参考：バンテリンドーム名古屋の建築面積：約4.8ha)

#### 額田サイトの自然を活用

##### 効果的な間伐

⇒ CO<sub>2</sub>を吸収  
(カーボンオフセット)

##### 森林を管理

⇒ 樹木の健全性  
(ネオチャーポジティブ)  
⇒ 伐採・間伐した木材を利活用  
(サーキュラーエコノミー)

更に、…

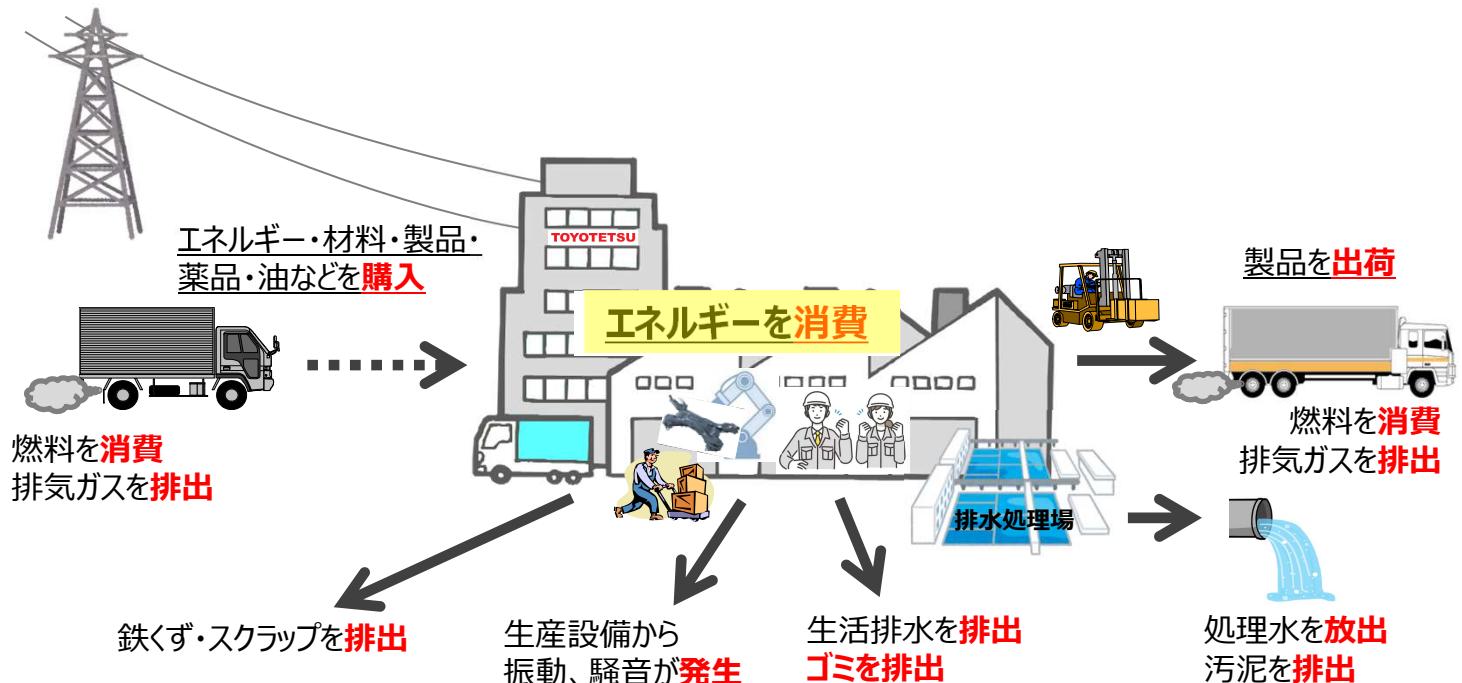
##### エリアの有効活用

⇒ manabiとasobiエリアの創生  
(社会貢献)

# 9 マネジメント

## 9-1. 法令遵守に向けた取組み

### ◆事業活動における環境関連法令への適応



工程系で対応すべき法令と遵守状況

○：遵守できている、－：対象外

主な環境関連法令	IN/OUT	OUTPUT					IN/OUT
	・燃料を消費 ・排気ガスを排出	・鉄くず・スクラップ を排出	・生産設備から騒 音、振動が発生	・生活排水を排出 ・ゴミを排出	・処理水を放出 ・汚泥を排出	・燃料を消費 ・排気ガスを排出	
大気汚染防止法	○	－	－	－	－	－	○
土壤汚染対策法	○	－	－	－	－	－	○
資源有効利用促進法	－	○	－	○	○	○	－
騒音/振動規制法	－	－	○	－	－	－	－
廃棄物処理法	－	－	－	○	○	－	－
水質汚濁防止法	－	－	－	○	○	－	－
省エネルギー法	○	○	○	○	○	○	○

異常事態を想定した訓練を計画的に実施しています。

部・工場	No.	部署	想定事象	計画○ 実績●												
				24/4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	25/1月	2月	3月	
本社工場	1	組立1課	塗料缶転倒による塗料流出									●18				
	2	製造技術課	ドム缶転倒による油流出					○	●25							
	3	製造技術課	最終放流口から異常水流が流出					○		●14						
	4	プレス課	リフトに軽油給油時オーバーフロー				●16									
	5	物流課	車両から油漏れ						○	●11						
	6	総括課	ヤードで油漏れ発見						●14							
広久手工場	7	製造技術課	車両から油漏れ	●8	○											
	8	製造技術課	油倉庫から油が側溝へ流出		○	●20										
	9	製造技術課	コンフレーザー室から外部へ異常騒音		○				●26							
	10	総括課	車両から油漏れ			●4							●10	○		
	11	製造技術課	ガス貯蔵設備からガス漏れ													
額田工場	12	製造技術課	排水処理施設から油が放流口へ流出		○					●24						
	13	製造技術課	加工油集中タックから油が雨水溝へ流出					●15	○							
	14	製造技術課	油水分離槽から油が放流口へ流出						●19	○						
	15	物流課	車両から油漏れ							●13	○					
	16	製造技術課	油倉庫から油が側溝へ流出	●4	○											
篠原工場	17	製造技術課	ドム缶転倒による油が調整池へ流出	●4	○											
	18	製造技術課	危険物倉庫から油流出					●9	○							
	19	製造技術課	油水分離槽から油が放流口へ流出			●9	○									
組生工場	20	総括課	車両から油漏れ		○											
	21		設備運搬時設備からの油漏れ				●9	○								
	22	試験室	設備から油漏れ					○	●25							
2開発部	23	試験室	薬品容器転倒による薬品漏えい									●3				
	24		廃油運搬時車転倒による油流出							●18						
	25	試作室	廃油運搬時車転倒による油流出							●7						
生管	26		車両から油漏れ					○	●14							
	27		車両から油漏れ						●16							
アグリ	28		車両から油漏れ							●13						

＜訓練風景＞



# 9 マネジメント

## 9-2. 環境連結マネジメントの強化

### ◆事業体とのコミュニケーション

各事業体の環境担当者と意見交換会を通して、情報の共有を図っている。

\*日本人スタッフだけでなく、ナショナルスタッフも参加

議題例)

- ・年度推進計画の活動状況
- ・各国、各地域の環境関連情報の変化や客先とのやり取り内容
- ・環境関連法令遵守や環境異常苦情や環境ヒヤリ状況
- ・各社困りごと吸い上げとその解決策に向けた議論
- ・グローバル改善事例の横展状況 など

WEB MTG開催実績

●実施済

地域	拠点名	24年6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	25年1月	2月	3月
北中米	TTAI						●11/19				
	TTMA/YKTA							●12/11			
	TTTX/TTMX							●12/17			
	FTIC/TTCA						●11/27				
欧州	TTTI		●7/23								
アジア	TTID/TTIA						●11/7				
	TTTH				●9/30						
	NTC/NTTE				●9/17						
	TTAP/GTAP				●9/4						
	TEP		●7/29								
日本	TEC										
	TFC/TTC	●6/29									
	TIC			●8/27							



# 9 マネジメント

## 9-3. 環境月間の取組み（6月）

区分	実施事項	SDGs つながり	実施時期	内 容
告知	ポータルへの掲示 本館ロビーと通用門で告示		6/1～6/30	環境月間行事等の案内
	環境のぼりの展開			各工場＆本館での環境のぼり設置
学習	社内報 特集		6/21（金）	環境月間で計画する各種行事案内と環境関連トピックスを掲載
	環境講演会			講師：気象キャスター 高塚 哲広 様 演題：「今が正念場 激変地球号」 ～それ違います！今やるべき環境対策は…～
実践	クールビズ		5/1～10/31	「Cool Choice（賢い選択）ヨシ！」 冷房温度の最適化、快適で働きやすい軽装の呼び掛け
	創意工夫		5/6～6/18	特に「環境」にテーマを募集
	グリーンウェーブ2024		5/20（月）	同日同時刻にトヨタグループで植樹を実施 (日本▶中国▶東南アジア▶インド▶トルコ▶アメリカ・メキシコ)
	職場改善事例コンクール		6/3～8/1	オールトヨタで募集し、ブロック毎に表彰 優秀賞・優良賞を選抜し、年央環境委員会で表彰
	家庭のエコ事例コンクール			従業員の各家庭で実施したエコ事例を募集 優秀賞・優良賞を選抜し、年央環境委員会で表彰
	省エネパトロール		6/1～6/30	各部・工場の環境保全責任者、推進者と環境事務局が 昼夜休み、直間、定時後等に「電源OFF」状況などの見回り
	ライトダウン		6/21、7/5、7/7	節電の推進（職場でも家庭でも） 6/21（金）、7/5（金）の定時帰宅推奨日と 7/7（日）の七夕の日（クールアースデイ）
	食堂でサステナブル シーフードメニュー提供		6/27（木）	環境に配慮した水産物認証食材を使用したメニューを提供 今年度は、本社と篠原で提供（他工場は今後検討）
	フードドライブ		6/11～6/28 (10月も計画)	家庭で消費しない（余っている）食品を福祉団体や施設へ寄付



＜環境講演会＞



＜植樹祭＞



＜環境配慮食材提供＞



＜フードドライブ寄付＞



# 9 マネジメント

## 9-4. 地域貢献活動

### ボランティア活動推進

トヨテツは、CSRの観点から2013年に発足した『トヨテツボランティア倶楽部』を中心に、各所で各種の活動に参加し、社会・地域貢献に取組んでいます。

#### 西広瀬小学校ビオトープ保全 2024年5月26日(日)



- ・ブルーベリー畠跡地の整地とツバキの移植を行いました。
- ・GTAP(中国)からの研修生も参加して頂きました。

#### 矢並湿地保全活動(夏) 2024年9月28日(土)



- ・10月中旬の一般公開に向けた参観道の草刈りと草運びを行いました。
- ・参加メンバーには、矢並地区在住のトヨテツOBの方々にも参加して頂きました。

#### 枝下河川竹整備 2024年10月20日(日)



- ・地域の方々と竹切りと切った竹を運び出しを行いました。

#### 矢並湿地保全活動(冬) 2025年1月25日(土)



- ・2回目/年の開催です。
- ・近隣の小中学校の生徒さんや先生、地域企業のボランティアの方々とともに参加しました。

# 9 マネジメント

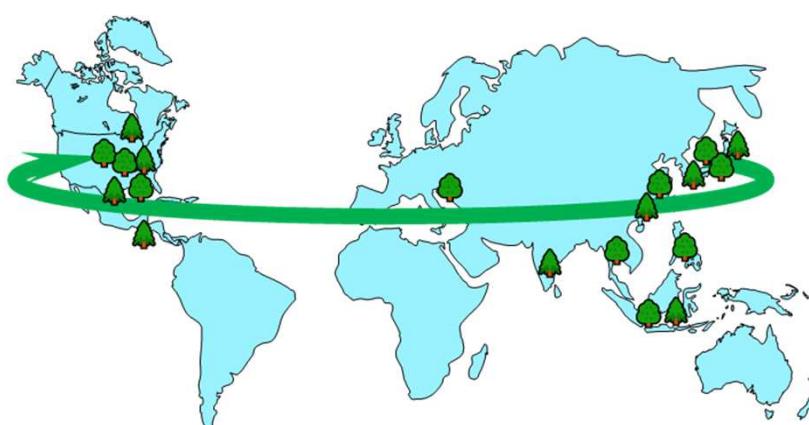
## 9-5. トヨテックグループトピックス 1

### グリーンウェーブプロジェクト

グリーンウェーブは、国連が呼び掛けた活動で、2020年に国連の活動としては終了しましたが、トヨテックグループは『SDGs』や『自然共生』の観点から継続的に実施しています。

国内外事業体が、2024年5月20日の現地時間10:00に『みどりの波』でつながりました。

(日本→→アメリカ・メキシコ)



# 9 マネジメント

## 9-5. トヨテックグループトピックス 2

### グループ各社の主な活動（国内事業体）

#### グリーンな活動

##### [TFC]

- ・犬鳴川河川公園内に花植え



##### [TTC]

- ・北方小学校花いっぱい活動
- ・秋の植樹祭



#### クリーンな活動

##### [TFC]

- ・笠松地域グリーン作戦
- ・犬鳴川河川公園掃除ボランティア
- ・オオキンケイギクの駆除活動



##### [TTC]

- ・伊豆沼のクリーン活動（3/20）
- ・長沼フートピアトヨテツの丘公園でボランティア活動
- ・登米市クリーンアップ湖沼群in長沼



##### [TEC]

- ・会社周辺の清掃活動
- ・瀬戸市蛇ヶ洞川清掃



# 9 マネジメント

## 9-5. トヨテックグループトピックス3

### グループ各社の主な活動（海外事業体）

#### グリーンな活動

##### [FTIC]

- ・地元Jamestownで植樹
- ・Earth-Dayにサボテンを配布

##### [TEP]

- ・トヨタサプライヤーズクラブ(TSC)で植樹
- ・ラグーナテクノパーク (LTAI)主催で植樹
- ・ラグーナテクノパーク主催でマングローブ植樹

##### [TTIA&TTID]

- ・世界環境Dayに署名と植樹



#### クリーンな活動

##### [TTCA]

- ・会社周辺でゴミ回収活動

##### [TTMA]

- ・地域の野外整備や草刈り、ゴミ撤去作業を実施



#### SDGsな活動

##### [TTIA]

- ・テクノパーク内で再生紙を使った小物販売を実施



##### [TTMX]

- ・従業員からの不用品（ジャケット）回収で寄付活動

##### [YKTA]

- ・ポリネーターガーデンを設置



# 9 マネジメント

## 9-6. 「トヨテツの森」の取組みを発信

◆『トヨテツ森』を紹介する機会が増えています。

### <愛知県との連携>



【7月】

愛知県議会県民環境委員会様と環境事務局様 総勢25名の皆さまが、「企業が取組む自然共生プログラム活動」の調査のため、『トヨテツの森』を見学されました。



【10月】

Aichi Sky Expo(愛知県国際展示場)で開催された、「SDGs AICHI EXPO 2024」で、『トヨテツの森』の自然共生・生物多様性の取組みをSDGs目標に関連付けて紹介しました。

(←人事部の山岡さんがプレゼンターを務めました。)

### <豊田市との連携>



【5月】

よたビジネスフェアでは、『トヨテツの森』でのイベントや保全活動など環境取組みを紹介しました。

また環境省が主催する「自然共生サイト認定書」や愛知環境賞『銀賞』の認証書と盾を展示し、見学者の方々にトヨテツの環境活動をPRしました。

### <トヨテツOBとのつながり（とよてつ社友会）>



【11月】

本社工場を見学された後、今回初めて社友会の方たちに『トヨテツの森』を紹介しました。なかには、2013年完成の『トヨテツの森』を初めて見られた方もいらっしゃいました。

# 10 第三者保証

一般社団法人 SDGs推進センター 副代表理事  
環境省登録 環境カウンセラー  
百瀬則子 氏



2024年の温室効果ガスの濃度は引き続き増加しており、CO<sub>2</sub>の年増加量は観測史上最大となりました。その結果、世界平均気温は観測史上最高となり、平均気温は産業革命以前より1.55°C高かったと世界気象機関（WMO）から発表され、日本においても100年に1度というレベルの異常気象が各地で発生しました。こうした状況の中で、トヨタグループは2021年から5年間の第5次環境取組みプランに基づき、自動車部品の開発・設計、生産、物流のあらゆる段階において、温室効果ガス及び排出物の削減に取組み、一部を除いて目標を達成しています。また、脱炭素と同様に重要課題である生物多様性保全や地域社会貢献の成果についても報告されています。

私は豊田鉄工株式会社の2024年度環境活動第三者保証のために本社を訪問し、また環境報告書記載内容についてインタビューを行いました。私はこの報告書を拝見し、トヨタグループが事業及び環境・社会貢献活動を通して、カーボンニュートラルとSDGs達成に取組み、持続可能な企業として成果を上げていることを確認しました。

今年の環境報告書トップメッセージでは冒頭に「**2030年CO<sub>2</sub>排出量50%減（2013年比）に向けて、みんなでチャレンジ**」と、力強く宣言されています。そして第5次環境取組みプランとして「脱炭素」「循環型社会」「自然共生・生物多様性」「マネジメント」に取組み、地球のため、子供たちのために我々トヨタグループも全員が一丸となって、“愚直に地道に徹底的に”取組んでまいります、とあります。現在進めている第5次プランに続く第6次プラン策定により、2030年のSDGs最終年までに持続可能な社会構築を更に推進されることを確認しました。

**脱炭素の取組み**では、カーボンニュートラルを目指し特に省エネに徹底的に取組み、更に自社での再エネ発電を進めています。2024年11月に竣工の広久手工場に隣接した組立生産技術工場は、太陽光発電と水素発電システムを導入し、昼間は自社電力で操業し再生エネルギー率100%であり、余剰電力を広久手工場に供給してスコープ2（電力由来のCO<sub>2</sub>排出）の削減に貢献していることを確認しました。そして、海外拠点を含めたトヨタグループ全体で再生可能エネルギーへの転換を進め、TTTI（トルコ）では太陽光発電による再生可能エネルギー100%で操業し、豊田鉄工では22.4%、グループ全体では15.0%と報告されています。2050年カーボンニュートラル達成を目指した取組みを加速させていることを確認しました。

**循環型社会への取組み**では、技術開発本部でリサイクルした鉄鋼素材をブレーキペダルという重要保安部品に用いたことは、サーキュラーエコノミーの実践であり、品質を保ち、コストを上げずに原料1kg当たりCO<sub>2</sub>を73%削減したことを高く評価します。また、全社的には生産量増加の影響で水使用量と廃棄物総量は増加しましたが、様々な改善と工夫により、原単位を目標値より削減したことを確認しました。特に額田工場の生活排水処理施設において、窒素濃度上昇を防ぐために加温装置を設置し、希釈水を大幅に削減したことは水資源と生物多様性保全の両方に貢献することを確認し評価します。それ以外にもそれぞれの現場で創意工夫により節水や省資源に成果を上げています。

**生物多様性保全**は、従来から活動している「トヨタの森」で地域の子どもたちへの環境教育や自然共生プログラム実践など、地域社会と連携して環境保全に取組んだことが挙げられています。そして2024年3月環境省から自然共生サイトに認証され、更に8月には国際的なデータベースOEBCMに登録され、地域社会と世界、次世代につなぐ活動になっています。世界中が目指している**ネイチャーポジティブを実践**していることを高く評価します。2024年3月からは額田サイトの森林再生で生物多様性とCO<sub>2</sub>吸収による脱炭素を目指す活動が始まりました。この7.5haの森林を整備することで、CO<sub>2</sub>吸収効果による脱炭素、生物多様性保全、そして間伐材の利活用による資源循環と、**いくつもの課題を同時に解決するネクサスアプローチの実現**を期待します。

環境マネジメントの報告では、海外拠点との連携や環境月間の活動、地域のボランティア活動などが紹介されています。特にグローバルで実践している毎年5月20の同時刻に植樹活動などを行う「グリーンウェーブプロジェクト」は、国連の活動終了後も継続している素敵な活動です。このように、トヨタグループは社会貢献活動を長く継続することで、広がりと連携強化を実践していることを確認しました。

これらの確認ができたことにより、環境報告書2025の記載内容について保証いたします。持続可能な社会を構築する持続可能なトヨタグループとして、最先端のものづくりの技術と全員参加の環境マネジメントにより、脱炭素・資源循環そして自然共生・地域貢献活動の実現でSDGsに貢献することを期待しています。

## SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



# 豊田鉄工株式会社

私たちトヨテツグループは、より良い社会と未来のため、事業活動を通じた取組みにとどまらず、地域社会への貢献をグローバルで取組んでいます。